

小中9年間を通してキャリア発達を促す カリキュラムの在り方

～全教育活動におけるキャリア教育の充実を通して～

【研究仮説】

小中9年間で育成する力の系統表を基に、児童生徒の学びを生活や社会とつなげる授業づくりや、児童生徒が学びを見通したり振り返ったりする工夫を行えば、学ぶ意義を実感し、主体的に考え行動する児童生徒を育成できるであろう。



江田島中学校区で育成する四つの力

(※黄色枠:重点的に取り組む力)

見つめる力

(自己理解能力・自己管理能力)

キーワード
○自己に関するもの
○自律に関するもの

関わる力

(人間関係形成能力・社会形成能力)

キーワード
○伝える
○認め合う
○協働

やりぬく力

(課題対応能力)

キーワード
○課題解決に向けて

見通す力

(キャリアプランニング能力)

キーワード
○仕事・役割に関するもの
○生活・学習・仕事とのつながり
○活動・学びの計画性や工夫



目 次

はじめに（キャリア教育を進めるに当たって）

○ 江田島中学校区のキャリア教育	
1 キャリア教育の定義	1
2 江田島中学校区の児童生徒の実態	2
3 江田島中学校区で育成する四つの力	2
4 江田島中学校区で育成する四つの力とその具体	3
5 江田島中学校区における授業スタンダード	4
6 取組体制	5
7 取組概念図	5
8 江田島中学校区 3年間の取組の流れ	6

第1章 PDCA サイクル ～P～

第1節 Plan を行うに当たって	
1 子供たちの実態を把握する	1-1～
2 実際の研究構想図	1-5～

第2章 PDCA サイクル ～D～

第1節 Do を行うに当たって	
1 キャリア教育の育成する力と教科・領域をつなぐ	2-1～
2 地域・社会と学びをつなぐ	2-3～
3 カリキュラム・マネジメントで学びをつなぐ	2-7～
4 各教科等における実践例	
(1)切串小学校 生活科(第1学年)「いきものとなかよし」	2-9～
(2)江田島小学校 社会科(第4学年)「郷土の伝統・文化と先人たち」	2-13～
(3)江田島中学校 総合的な学習の時間(第1学年)「進路探究学習」	2-17～
(4)江田島中学校 総合的な学習の時間(第2学年)「職場体験」	2-23～
(5)江田島中学校 総合的な学習の時間(第3学年)「企業面接体験」	2-31～
5 学校行事等の教育活動における実践例	2-35～

第3章 PDCA サイクル ～C～

第1節 Check を行うに当たって	
1 子供の学びや成長を見取る	3-1～
2 研究の成果と課題	3-7～

第4章 PDCA サイクル ～A～

第1節 Action を行うに当たって	
1 改善案を作成し、カリキュラムを構築する	4-1～
2 成果と課題から、育成する力と系統表の見直しを図る	4-4
3 教育活動全体の改善を図る	4-5～

第5章 教職員の声	5-1～
-----------	------

はじめに

**キャリア教育を進めるに
当たって**

江田島中学校区のキャリア教育

【研究主題】

小中 9 年間を通してキャリア発達を促すカリキュラムの在り方
～全教育活動におけるキャリア教育の充実を通して～

【研究仮説】

小中 9 年間で育成する力の系統表を基に、児童生徒の学びを生活や社会とつなげる授業づくりや、児童生徒が学びを見通したり振り返ったりする工夫を行えば、学ぶ意義を実感し、主体的に考え行動する児童生徒を育成できるであろう。

1 キャリア教育の定義



キャリア教育とは何ですか？

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申)」(平成 23 年 1 月 31 日))



キャリア発達とは何ですか？

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申)」(平成 23 年 1 月 31 日))



キャリア教育をどのように進めるとよいですか？

まず、キャリア教育を正しく知り、全教職員で共有化を図ることが大切です。例として、全教職員で、運動会や学習発表会などの全校で行う行事を基に話し合ってみましょう。その行事を通して子供のどんな姿を育成したいか、そのために教師はどんな働きかけをすればよいか、どんな取組方法があるかなどを協議すると、学校全体でキャリア教育をどう進めるとよいかの方向性が明確になり、キャリア教育の視点で教育活動を見直すことにつながります。

2 江田島中学校区の児童生徒の実態

(詳細は 1-1ページ)

広島県児童生徒学習意識等調査結果より

◎自己理解・自己管理能力（「見つめる力」）

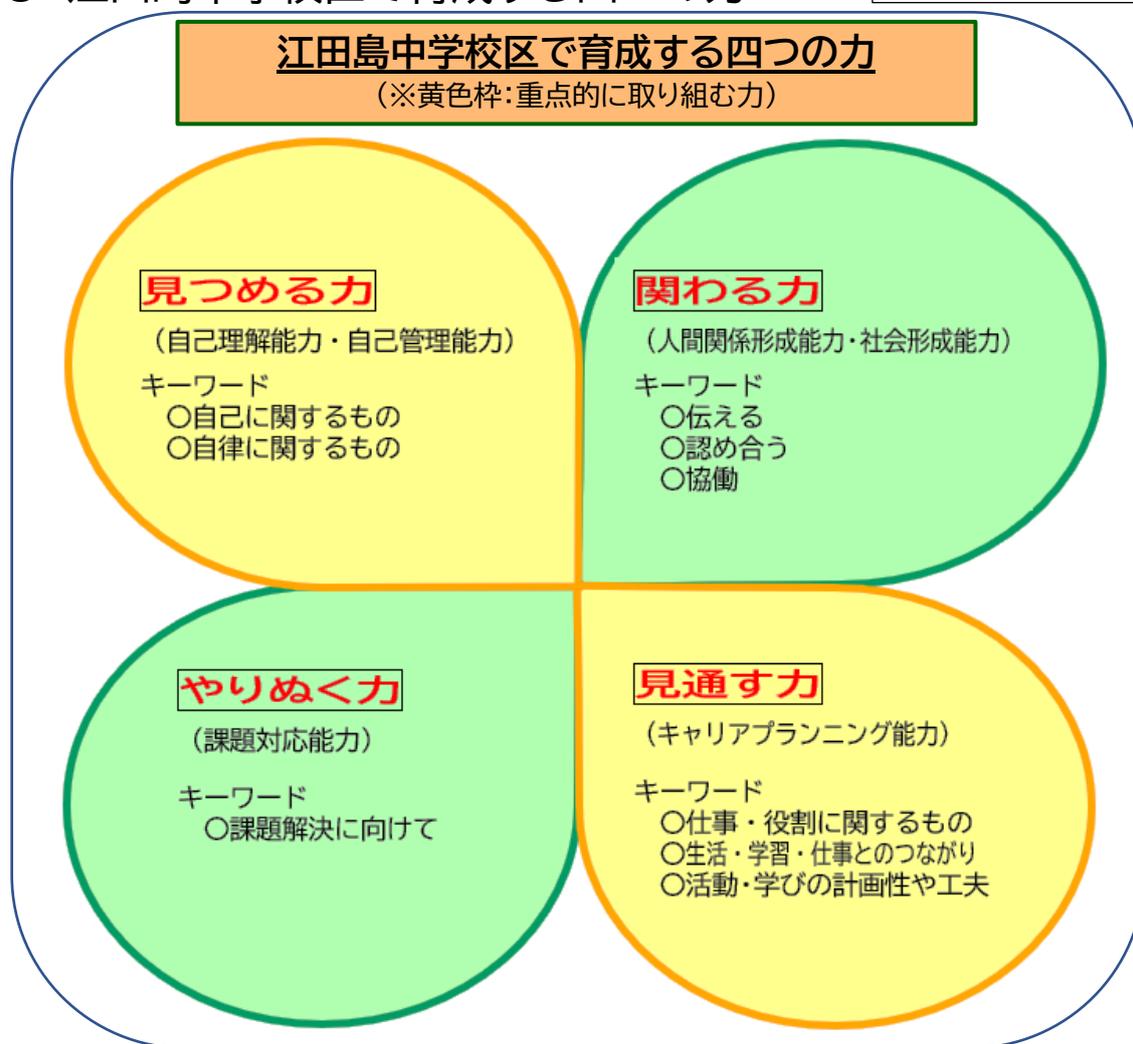
児童生徒の多くが学習と生活の両面で受け身であり、活動や単元後における振り返りで、自分を見つめるための工夫が必要であることがわかった。

◎キャリアプランニング能力（「見通す力」）

児童生徒は、生活や学習と仕事のつながりを意識できておらず、学習の意義を感じていないことから、児童生徒が探究的な学習をできるように、単元導入時における教材等の出会わせ方を工夫したり、学習計画を立てて学び方を選択できるように工夫したりする必要があることがわかった。

3 江田島中学校区で育成する四つの力

(詳細は 1-2 ページ)



児童生徒の実態から、重点的に取り組む力を二つに絞り、取り組むことにした。また、四つの力は、児童生徒にわかりやすい言葉に置き換えることにした。四つの力はそれぞれ関連しており、たとえ育成する力の一つ重点的に取り組んでも、他の力も関連して育成される。

4 江田島中学校区で育成する四つの力とその具体(系統表)

広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力		
自己を認識する力 自分は何が好きなのか、自分はどのような人間なのかなど、自分自身のことを理解することができる力	表現する力 自分自身のことや自分の意見などを、相手や場面に応じて、言葉の使い方や表現の仕方の仕方などを工夫しながら伝えることができる力	自分の人生を選択する力 自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができる力



江田島中学校区で育成する四つの力とその具体			
	見つめる力 (自己理解能力・自己管理能力)	関わる力 (人間関係形成能力・社会形成能力)	見通す力 (キャリアプランニング能力)
中学校	○自分の長所や個性を理解し、主体的に自己の向上を図る。 ○自分の夢や目標の実現に向け、自律的な判断に基づいて行動を選択する。	○相手の個性や立場を尊重して話を聴き、自分の考えを伝える。 ○自分の役割を果たすために、必要に応じて他者と協働する。	○将来の夢や目標の実現に向けて努力する。 ○生活や学習と仕事を関連付け、生活や学習の仕方を工夫する。
高学年	○自分の長所や短所に気付く。 ○場面や状況に応じて適切に行動する。	○相手の立場に立って話を聞き、自分の考えを工夫して伝える。 ○他者と協力して物事に取り組む。	○働くことの意義が分かる。 ○生活や学習と仕事を関連付け、今しなければならぬことを考える。
中学年	○自分のよさに気付く。 ○自分のやりたいことやよいと思うことを進んで行う。	○相手の話を聞いて、自分の考えを分かりやすく伝える。 ○友達と協力して取り組む。	○働くことの大切さが分かる。 ○計画を立てることの必要性に気づき、手順を考える。
低学年	○自分の成長や自分が頑張りたいことに気付く。 ○よいこと・悪いことの区別をする。	○自分の考えを話す。 ○友達と仲よくする。	○様々な仕事に興味・関心をもつ。 ○決められた時間内に、準備や片付けをする。
やり抜く力 (課題対応能力)			
中学校	○生活や学習の過程を振り返って課題を見付け、主体的に解決したり次に生かしたりする。		
高学年	○生活や学習上の課題を見付け、最後まで解決しようとする。		
中学年	○周りの人から支援を受けながら、自分の力で課題を解決しようとする。		
低学年	○どんなことにもチャレンジをし、自分のことは自分で行おうとする。		

※系統表の見方についての留意点

江田島中学校区では、人として成長を遂げるには「やりぬく力」は土台と成り得る重要な力と考え、三つの力の土台として位置付けている。

キャリア教育を教科・領域や教育活動でどのように取り組むとよいかはわからず、しばらく研究が足踏み状態となってしまった。そこで、キャリア教育の視点で単元を整理し、どこでどんな力を育成するかを明示して、授業改善を図ることにした。

5 江田島中学校区における授業スタンダード

(詳細は 2-1ページ)

P

- 子供たちの実態を把握する。
 - ・今、手元にある情報を捉える。
 - ・現状把握のための新たな方法も検討する。
- クリアな目標を設定する。
 - ・小中9年間で育成する力とその具体の系統表作成
 - ・全教育活動における出前授業の実施
 - ・ルーブリック評価を活用した子供の成長の見取り
 - ・カリキュラム・マネジメントで学びをつなげる。

実態把握の方法

- ・意識調査（質問調査）、保護者アンケート
- ・学校評議員からの意見
- ・学校評価（自校評価・学校関係者評価）
- ・教職員の見取りや付箋等を活用した意見交換
- ・全国学力・学習状況調査 質問紙調査
- ・広島県児童生徒学習意識等調査 など

D

- キャリア教育の育成する力と教科をつなぐ。
 - ・授業スタンダードを構築する。
- 地域・社会と教科をつなぐ。
 - ・単元構成を工夫し、学びと生活や仕事とつなげて、学習の意義を理解できるようにする。

- ・地域や人から学び、自分たちの学習の意義を理解できるようにする。
- ・音声言語による話し合い活動を仕組み、自分の考えや学びを広げる。

キャリア教育を意識した 探究的な学習に向かう学びの型（授業スタンダード）

プロセス	見通す（課題設定）			実行する			見つめる（振り返る）
	問い	目標	計画	情報収集	整理・分析	まとめ・表現	
探究的な学習				比較 具体化 関連付け	比較 関連付け 多面的・多角的 理由・根拠の 明確化	構造化・一般化 要約 価値付け 発信	評価 変容 改善 適用
身に付けさせたいスキル	想起 比較	分類 焦点化	順序立て 見通				
育成する力	身に付けたいスキル						
見つめる力 自己理解能力 自己管理能力				自己の思考や感情を律する 前向きに考える			自分の成長を感じる 目指したい姿をもつ
関わる力 人間関係形成能力 社会形成能力				相手を受け止める（認め合う） コミュニケーション 他者に働きかける （助け合い・励まし合い・支え合い・協力）			
見通す力 キャリアプランニング能力	逆算的思考 いつどこで何をどのように 生活や学習と仕事との関連付け 課題（問い）を見付ける			行動と改善			学ぶことの意義 や役割の理解 働くことの意義 や役割の理解 将来設計
やりぬく力 課題対応能力				計画を見直ししながら、自分の力で最後まで解決する			

赤枠・塗りつぶし部分 … 中学校区における重点的な取組

C

- 子供の学びや成長を見取る。

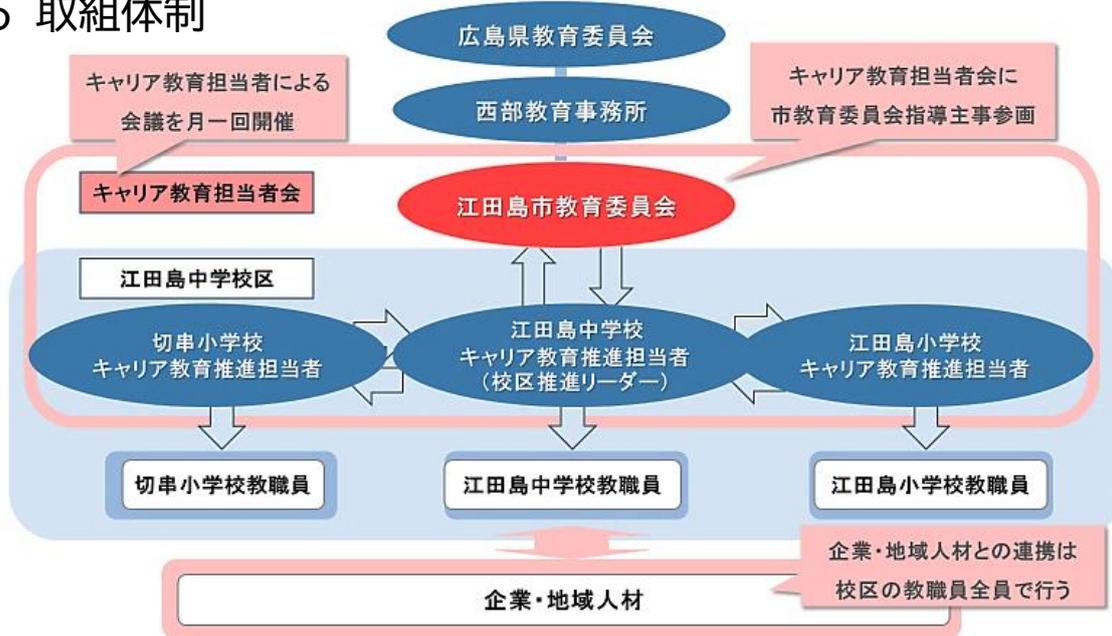
- ・ルーブリック評価を活用した見取り
- ・学習（活動）後や単元末で、自分の学びや成長を振り返る場面を設定する。（文字言語で学びを深める。）
- ・補助簿を活用して、育成する力とその具体について子供の成長を毎学期見取り、褒めたり授業改善に活用したりする。
- ・授業研究における協議会にて改善案を考える。

A

- 改善案を作成し、カリキュラムを構築する。
- 年間指導計画を改善し、カリキュラム・マネジメントを行う。

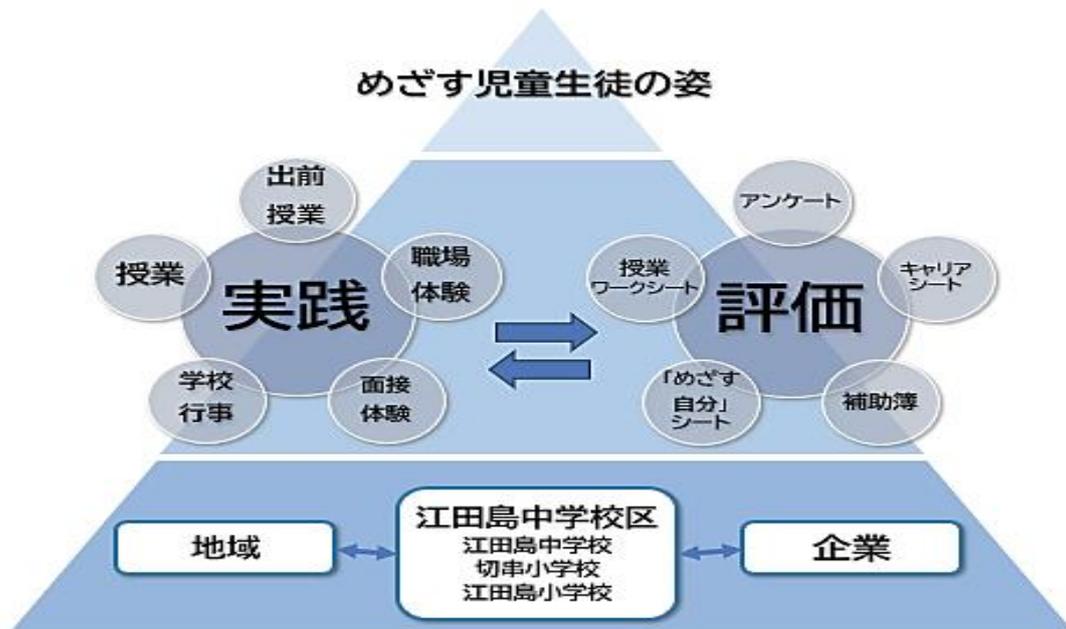
- ・教科・単元と育成する力とその具体の整合性を見直す。
- ・単元構成を見直す。
- ・実態に適した指導・支援の工夫になっているか。
- ・年間指導計画の改善を図る。
- ・カリキュラム・マネジメントを行い、学習をつなげて学びを深める。

6 取組体制



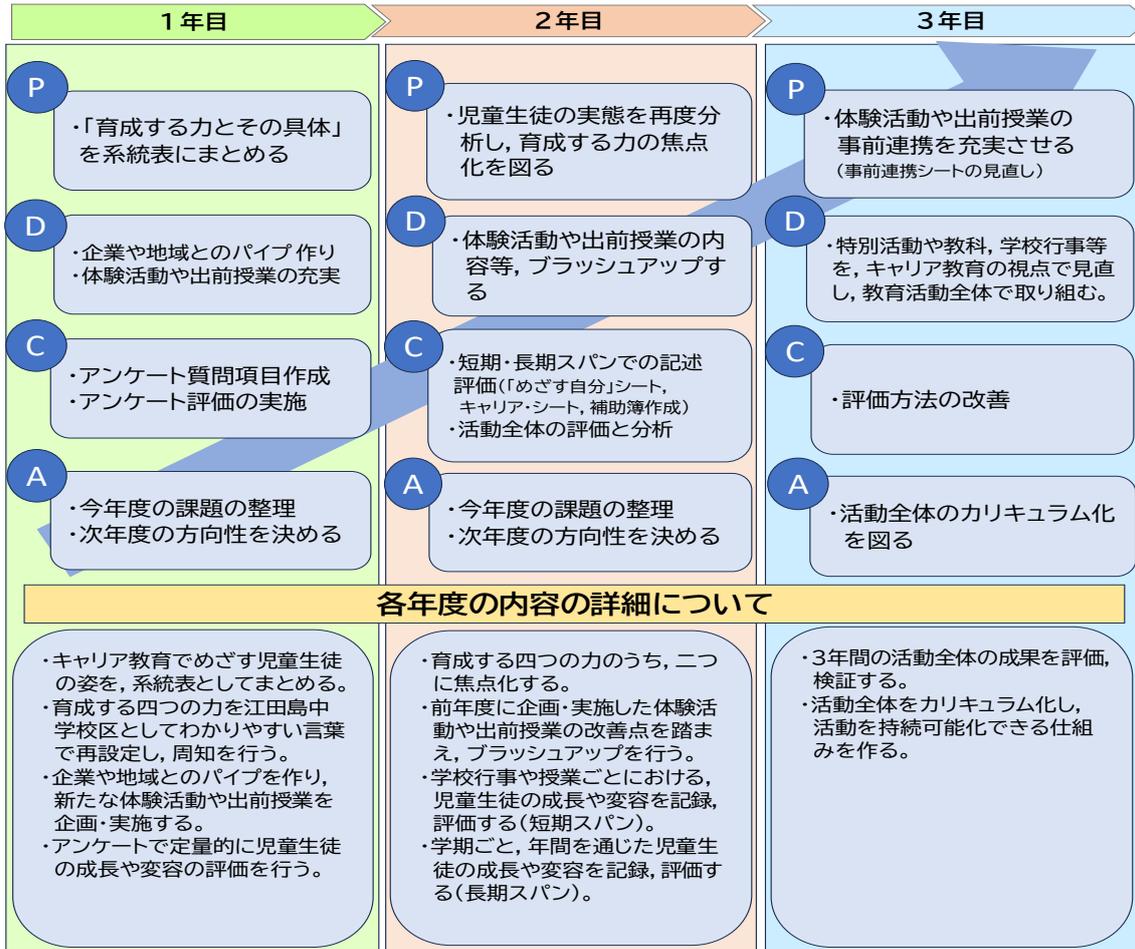
- ・キャリア教育担当者による会議を月一回開催し、校区間での連携を強化した。
- ・キャリア教育担当者会には、初期から市教育委員会指導主事が参画し、活動の方向性を共有できる体制とした。
- ・企業や地域人材との連携は、キャリア教育担当者だけでなく校区教員全員で行う体制とした。

7 取組概念図



- ・キャリア教育を行う上での土台として、地域・校区・企業が連携し合える土壌作りを行った。
- ・めざす児童生徒の姿を校区で設定し、その実現に向けて取り組んでいる。
- ・めざす児童生徒の姿の実現に向けて、出前授業や体験活動などの実践とアンケートやワークシート等を活用した評価を教員間で相互に行い、互いの活動をスパイラルにアップさせている。

7 江田島中学校区 3年間の取組の流れ (詳細は 第3~4章 等)



1年目に苦労した点

- ・企業や地域とのパイプ作り
- ・体験活動や出前授業の計画・作成
- ・系統表の作成

▼育成する力の全てを取り組み、混乱を招いた。

▼実態把握をアンケートに頼りすぎ、不十分であった。

▼評価が計画的でなかった。

2年目の工夫と成果

○実態に応じた育成する力の**焦点化**

- ・「育成する力」の周知と、目指す児童生徒の姿を共有化を図ることができた。

○評価方法を**短期・長期スパン**で実施

- ・短期スパン(学校行事ごと等)と長期スパン(学期ごと等)での評価・分析方法を確立することができた。

3年目の工夫ポイント

○**評価方法の改善**

- ・教科等の目標達成を目指す中で、キャリアの育成する力を見取る。(そのため、キャリアの視点での工夫を明確化した。)
- ・評価は、一つ一つの授業の効果を見るのではなく、長期スパンで見る。

2年目の苦労した点

▼**教科等における評価方法が難しかった。**

- ・教科等とキャリアの育成する力の両方を評価し、教科等のねらいが達成できなかった。
- ・ルーブリック評価を1h単位で行い、育成する力の変容が見取れなかった。

3年目に苦労した点

- ・特別活動や教科を広げた授業実践
- ・これまでの取組をキャリア教育の視点で見直し、教育活動全体で取り組む。
- ・評価方法の改善
- ・活動全体のカリキュラム化

今後に向けて

- ・取組の見直しと継続を図る。